



神谷 芳樹 著

ISBN : 978-4908520082  
サイバー出版センター刊  
A5判・302頁  
定価3,200円(税抜)  
2017年4月14日刊  
(Kindle版は2016年7月)

## コンピュータを「電気・ガス・水道」の ように身近にしたイノベーション

### コンドラチェフの次の大波に乗れ

SEC journalは本号で50号を迎えたが、ここで紹介する書籍は、電気情報通信の50年を鳥瞰した『コンピュータを「電気・ガス・水道」のように身近にしたイノベーション』である。私を感じた本書の特徴は二つあり、一つ目が著者が実際に身を置いたプロジェクトをトピックとして取り上げていること、もう一つは産業史を景気循環の波と併せて大きな視野から捉えていることである。

筆者が取り上げているトピックとしては、国家間のメインフレーム開発競争からソフトウェアビジネスまで、日本のソフトウェア産業史のダイナミズムを語る上で抜けのないもので、それが実体験なのだからすごい経験の持ち主である。それらトピックは経験談だけでなく、そのプロジェクトの意義が解説され、その後の動きも含めて考察されているため、歴史本として懐かしむにとどまらず示唆を与えてくれる。

また、景気循環との組み合わせはコンドラチェフの波などを用いている。コンドラチェフの波(コンドラチェフ循環)は、約50年の周期を持つ景気循環経験則で、技術革新に起因すると考えられている。筆者は正に産業革命後の第4番目のサイクルをエキサイティングな産業活動の中で経験し、この経験を次の波の立ち上がりを担う若い人たちに伝えたいとしている。その想いは、サブタイトルの「コンドラチェフの次の大波に乗れ」にも表れている。私はその若い人たちの分類には当てはまらないが、ソフトウェア産業、情報サービス産業に携わってきた私たちにとっては、産業界を振り返る書として手元に置きたい一冊となるであろう。

(遠藤 秀則)



独立行政法人  
情報処理推進機構  
AI白書編集委員会 編

ISBN : 978-4-04-899607-5  
株式会社角川アスキー総合  
研究所刊  
A4判・360頁  
定価3,300円(税抜)  
2017年7月刊

## AI白書2017

### ～人工知能がもたらす技術の革新と社会の変貌～

IPAは、ディープラーニングの進展などにより急速に進化を続けるAI(人工知能)について、正しい技術の理解と利用促進を促すため、現時点でのAIを巡る動きを総合し、分かりやすく解説した「AI白書2017」を刊行した。

ディープラーニングを起爆剤として、AIはその技術や利用が急速に進展しつつあり、産業や社会の様々な場面に大きな影響を与えることが予想されている。そこで、情報処理技術の利活用を促進するIPAでは、正しい技術の理解と利用を促すため、AIにおける産学の第一線の有識者7名で構成される編集委員会や、多くの執筆委員の協力を得て、「AI白書2017」を7月20日に刊行した。本書では、AIの技術動向、利用動向にとどまらずAI関連の制度的課題とその対応動向、AI研究開発の発展と産業への適用を促進する国内外の政策動向など、AIに関連した多様な動向を総合的に解説している。また、企業経営における第一人者による寄稿や情報系教育機関におけるAI分野の教育動向調査なども掲載している。

本書がAIへの正しい理解と適切な利活用の進展、及び日本発のイノベーション、新たなビジネス創出などによる、産業の活性化に寄与することを期待している。

(遠藤 秀則)